

ナカボツセンター引継ぎ後も障害当事者と就労定着支援事業所の関わりに留意したケース

圏域 柏・我孫子

センター名

ビック・ハート柏

氏名	Y・E	居住形態		家族同居	GH	单身	その他
手帳種別及び等級	精神保健福祉手帳	3級	年齢	31歳	性別		女
成育歴および現在の生活状況	<p>実家はM市にあり、両親、祖父母、弟と生活していた。地元の小学校、中学校を卒業し、母に「女性は資格を取得した方が良い」と言われ、動物関係の専門学校へ進学。専門学校卒業後は、犬の訓練や接客の仕事に就く。1年弱働いて、1年ほど休職している。休職のきっかけは、過呼吸を起こすようになり、記憶がなくなる、眠れないなどの症状が出たことである。この時初めて精神科を受診。精神的なもの（ストレス）が原因と言われる。休職中は自宅に引きこもり、落ち込んでいった。夜になると、自分はいない方がよいのでは、家族に迷惑をかけているのではと思っていた。退職後は、仕事から解放され、気持ちも軽くなっていった。体調を崩したこともあり、2013年頃から2015年夏まで都内にある母方の祖母の家で暮らし始める。その時に近辺で通所できるデイケアやクリニックを探し、クリニックに転院している。2015年頃、R事業所へ通所するため、M市の実家に戻る。</p> <p>R事業所の利用期間は8か月。当初は、資格を活かせる仕事（ドッグカフェ勤務等）を検討していたが、接客は症状悪化の可能性があるため、接客のない倉庫業でかつ、福利厚生がしっかりしているZ社に2016年8月入社。2017年に結婚。現在はK市在住。</p>						
就業前の訓練事業所	R事業所	サービスの種類	就労移行支援事業所	期間	8か月		
就職先	Z社			入社日	H28.8.9		
業務内容	倉庫内軽作業						
就業先企業情報	<p>業種：通販サイト運営、自社ブランド運営等</p> <p>従業員数：全体で約1,100名</p> <p>障害者雇用歴：2019年3月の時点で、31名のスタッフを採用している。（身体障害、精神障害、知的障害）</p> <p>その他：障害者雇用でも福利厚生はしっかり整っており、産休・育児休暇も取得可能。</p>						
就業前の課題	円滑なコミュニケーションを取ることができ、自身の症状や病状、体調や対処法等を理解し、対処することが出来るが、感情の整理が苦手であるため、R事業所の職員と定期的な面談を行い、気持ち等の整理等が必要。						
就労定着支援個別支援計画	-						

<p>課題解消に向けた 支援体制</p>	
<p>障害者就業・生活支援 センターと就労定着 支援事業所間の 連携経過</p>	<p>2020年2月にR事業所（＝就労定着支援事業所）職員から、就労定着支援の期間が3年を経過するため、ナカポツセンターに引き継ぎたいとの連絡が入る。同月に、Y・E、R事業所の職員同席の下、引継ぎ面談を実施している。</p> <p>Y・Eの主訴としては、気持ちの整理が上手く出来ないため、気持ちを吐き出して整理する場所が欲しい。一人で抱え込んで苦しくなってしまうこともあり、ナカポツセンターでも月1回の面談をお願いしたいとのことだった。Y・Eは人見知りで、R事業所職員にも慣れるまで半年かかったとのこと、ナカポツセンターで定着支援を引き継いだ、何かあればR事業所とナカポツセンターで連携を取らせていただくこととした。</p> <p>通常は、Z社にて3月と8月に人事面談（契約更新）があり、そこに定着支援事業職員も同席していたとのこと、2020年3月の人事面談にも引継ぎの御挨拶も兼ね同席する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で、延期となってしまった。ただ、月1回の定期面談をY・Eが希望したことから、ナカポツセンターにて緊急事態宣言明けに月1回の面談を実施している。</p> <p>その際、Y・Eから以前一所属していた部署に異動したいと相談があり、経過を知っているR事業所職員にも面談に同席していただいたり、助言をいただいたりしてY・EやZ社への対応を行った。</p>
<p>具体的支援経過</p>	<p>H28.8 Z社に入社。</p> <p>H30.8 R2.2 就労定着支援事業（R事業所）を利用。</p> <p>R2.2 ナカポツセンターに定着支援を引き継ぐ。</p> <p>R2.7 Y・Eと面談する中で、異動への気持ちが傾いていると相談あり。Y・Eも希望したため、R事業所、職員と情報を共有し、まだ引継ぎのための企業訪問をしていなかったため、R事業所職員からZ社へ連絡を入れていただいた。</p> <p>R2.8 Z社とナカポツセンターでY・Eの状況を共有。Y・Eより、今までの経過やZ社の状況を知っているR事業所職員も含めて、異動について気持ちの整理をするために3者での面談の希望があった。R事業所職員に相談し、3者面談の了承をいただく。</p>

<p>具体的支援経過</p>	<p>R2.9 R事業所職員とY・E、ナカポツセンターとで、3者面談を実施した。Y・Eとしては、以前に所属していた部署に異動したいと希望あり。R事業所職員からは、今までの経過と異動についての懸念事項をY・Eに伝え、自分でどう対処するか考えるよう助言いただいた。</p> <p>Z社へも面談内容を共有し、Y・EとZ社の担当者と人事面談を実施している。その後2020年10月14日より、部署異動となった。</p> <p>R2.10 Y・Eと月1回の定期面談を実施。今は環境に慣れること、新しいやり方を整理したいとY・Eから話がある。今後も月1回の定期面談を希望されているため、対応予定。何かあれば、Z社へ適宜相談、報告を行う予定。</p>
<p>現在の状況及び支援効果</p>	<p>ナカポツセンターに定着支援を引き継いでから、Y・Eとの関係性もこれからの段階で、Y・Eから以前所属していた部署へ異動したいと希望が挙がる。入社からの経過や異動の経緯を知っているR事業所職員に、面談に入っただく等していただいたことから、Y・Eも安心して相談が出来た。また、同様にZ社にとってもナカポツセンターだけではなく、今まで支援していたR事業所職員が引継ぎ後も関わってくれたことは大きかったように感じる。</p> <p>引継ぎ後も、R事業所の就労定着支援が丁寧に対応して下さったことで、Y・Eの安定した就労に繋がったと思われる。</p>
<p>障害者就業・生活支援センター側からの支援・連携上の課題</p>	<p>Y・Eが就業してからの詳細な状況が分からない為、今回のように以前の状況をよく知っている職員が入っていただいたことで、対応が出来た。今後、定着支援事業が終了するにあたって、ナカポツセンターにスムーズに引継ぎを行う為には、適宜状況報告を頂けるとありがたいが、実際は難しいと感じる。</p> <p>もし課題がある、懸念される事項などがある場合は、ナカポツセンターに引継ぎのタイミングも含めて相談いただくと良いのではと感じた。また今回のように引継ぎ後も、状況によってY・Eの支援と一緒に動く等、対応して下さるととてもありがたい。</p>
<p>就労定着支援事業所からの要望・意見</p>	<p>—</p>